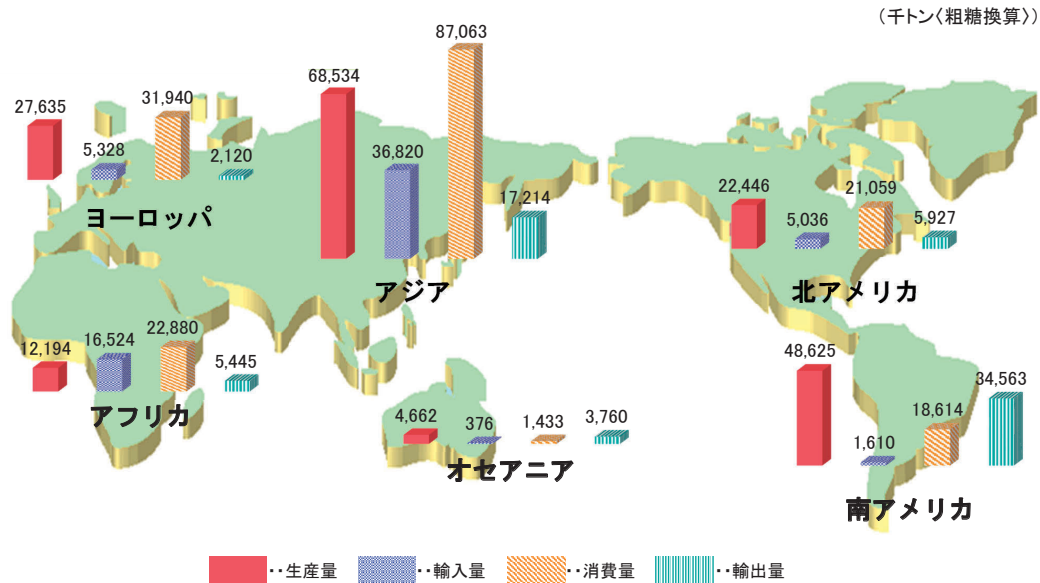


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2020年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2020」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,657	65,883	180,835	67,706	81,309	45.0
2018/19	81,309	186,544	61,425	183,858	61,689	83,730	45.5
2019/20	83,730	181,827	69,004	180,682	70,355	83,524	46.2
2020/21 (2020年9月予測)	84,771	184,534	63,871	180,040	69,411	83,725	46.5
2020/21 (2020年12月予測)	83,524	184,096	65,695	182,990	69,028	81,297	44.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

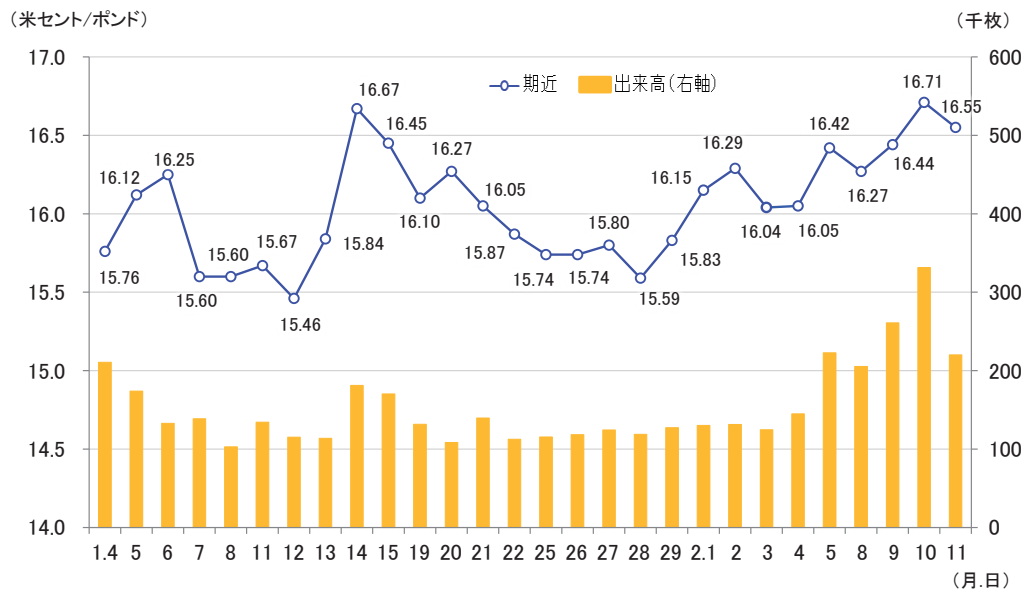
注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（1/4～2/11）

～世界的な砂糖供給のひっ迫見通しなどを受けて、15～16セント台で推移～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年1月の推移を見ると（3月限）、4日は、アジアからの堅調な砂糖需要に加えて、前月から引き続き世界的な砂糖供給のひっ迫見通しに支えられ、1ポンド当たり15.76セント^{（注1）}を付けた。6日は世界最大級の砂糖トレーダーが、2020/21年度および2021/22年度の砂糖生産量が消費量を下回るとの予測を発表したことなどから、世界的に砂糖の供給がひっ迫するとの見方が強まり、3年半ぶりの高値となる同16.25セントを付けた。7日はレアルが対ドルで1カ月半ぶりの安値となったことから、同15.60セントと急落した^{（注2）}。13日はブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が、同国中南部における2020年12月後半の砂糖生産量の減少を発表したことから、同15.84セントと上昇した。14日は世界的な砂糖の供給ひっ迫の見通しから、砂糖の先物

買いが活発化し、同16.67セントと急騰し、3年半ぶりに高値を更新した。15日はレアル安と原油価格の下落などを受けて、同16.45セントと下落した^{（注3）}。19日は、レアルの続落を受けて同16.10セントまで値を下げた。20日は、同16.27セントと値を上げたものの、その後はレアル安やブラジルのサトウキビ生産地の降雨予報、同国産砂糖生産量の増加などを受けて下落傾向で推移し、28日は同15.59セントを付けた。29日は、インドでコンテナが不足し砂糖輸出が停滞していることを受けて、同15.83セントまで上昇した。

2月1日は、EUの砂糖生産量予測が下方修正されたことなどが影響し、同16.15セントまで値を上げた。2日は、原油価格が1年ぶりの高値を付けたことで、砂糖相場も追随し、同16.29セントを付けたが、3日は、同16.04セントまで値を下げた。4

日以降は、原油価格の回復やタイ産砂糖生産量の減少予測などに伴い上昇傾向で推移し、10日は、同16.71セントまで値を上げた。11日は、2020/21年度の砂糖生産量が前年度から9%増加するとの見込みをインド砂糖貿易協会が発表し、砂糖需給の緩和が予想されたことで、同16.55セントと下落した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが安くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国

ブラジルの輸出意欲が上昇すると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替（補填）燃料であるバイオエタノールの需要も低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えることが想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2021年2月時点予測）

本稿中の為替レートは2021年1月末日TTS相場の値であり、1ポーランドズロチ=29.02円である。

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：871万ha（前年度比1.2%増）
生産量：6億6000万トン（同2.7%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4485万トン（同41.0%増）
輸出量：3396万トン（同67.1%増）

2020/21年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2021年2月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、871万ヘクタール（前年度比1.2%増）とわずかに増加すると見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天

候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億6000万トン（同2.7%増）とわずかに増加すると見込まれる。

一方、砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、4485万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同41.0%増）と大幅な増産が見込まれる。この予測の下、ブラジルレアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3396万トン（同67.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。

UNICA、2021/22年度のサトウキビ生産量について、前年度比減を予測

2021年1月26日付の現地報道によると、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）の技術部長は、サトウキビの主産地である同国中南部地域の2021/22年度におけるサトウキビ生産量が前年度の水準に届かず、ATR（サトウキビ1トン当たりの回収糖分）も前年度の145キログラムから、2～3年前の水準である138キログラム台にまで減少すると予測している。減産要因として同部長は、

2020年はサトウキビの植え替えが進まず、単収増加が見込めない状況であったことに加え、夏季の暑熱による生育不良、一部圃場での火災の散発、大豆など高収益性作物への転作などを挙げている。一方、2021年は、2019年までとはいかないものの、COVID-19の影響で落ち込んだ燃料需要の回復が見込まれる中、砂糖の国際相場もここ数カ月堅調に推移していることから、製糖業者は砂糖およびエタノールの生産に意欲的であると考えられるとしている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

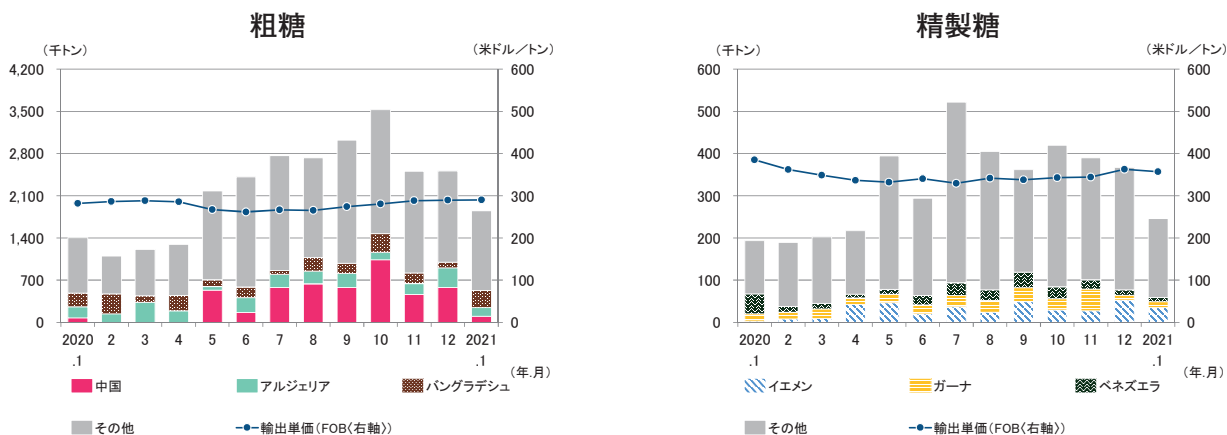
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (1月予測)	2020/21 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,617	8,649	8,599	8,706	8,706	1.2%	
サトウキビ生産量	641,066	620,832	642,677	660,000	660,000	2.7%	
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,804	44,845	44,852	41.0%
	輸入量	2	3	2	3	3	28.4%
	消費量	10,852	10,635	10,812	11,321	11,321	4.7%
	輸出量	31,026	21,017	20,321	33,954	33,961	67.1%
	期末在庫量	663	239	912	485	485	▲46.8%
	期末在庫率	1.6	0.8	2.9	1.1	1.1	1.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：473万ha（前年度比6.5%増）
生産量：3億9338万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3343万トン（同13.6%増）
輸出量：810万トン（同1.9%減）

2020/21年度の砂糖生産量はかなり大きく増加するものの、輸出量はわずかに減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた前年度からの反動で、473万ヘクタール（前年度比6.5%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表3）。サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が順調であることから、ダムの水位回復により、サトウキビ生産量は3億9338万トン（同13.6%増）、砂糖生産量も3343万トン（同13.6%増）といずれもかなり大きく増加すると見込まれる。輸出補助金の発表や粗糖の国際価格の堅調な推移、国内の砂糖価格の下落などを受けて、製糖業者は砂糖輸出を促進すると見られるものの、コンテナが不足している影響で砂糖の輸出ペースが鈍化しており、輸出量は810万トン（同1.9%減）とわずかに減少すると見込まれる。

コンテナ不足により砂糖輸出が停滞

インドでは、2020/21年度の砂糖増産が予測さ

れる中、国内製糖業者は輸出に前向きで、海外需要も堅調であるにもかかわらず、輸送用コンテナの不足が、輸出に影響を与えているという。

現地報道によると、2020年下半期は物流需要が予想以上に多かったことで、国内ではコンテナ不足が発生すると同時に、世界的に海上輸送費が上昇している。また、海運会社が利益の上がる中国発の輸送を優先させ、米国などで帰便の積載を待たずに空のままコンテナを中国に返送する事態が頻発するなどしてコンテナが中国に集中し、その影響でインドの輸出業者は必要量の4割程度しかコンテナを確保できず、砂糖だけでなく、米などの他の商品の輸出にも影響が生じている、と伝えている。

国内製糖業者は、1月中に粗糖を含む約20万トンの砂糖をアフガニスタン、スリランカ、東アフリカ諸国などへ輸出すると推定されているが、コンテナ不足から実際の荷動きは非常に遅くなっている。

こうしたインドからの砂糖の輸出停滞が、1月初旬に3年ぶりの高値に上昇した国際白糖相場の価格を下支えする可能性があるとの見方も出ている。

表3 インドの砂糖需給の推移

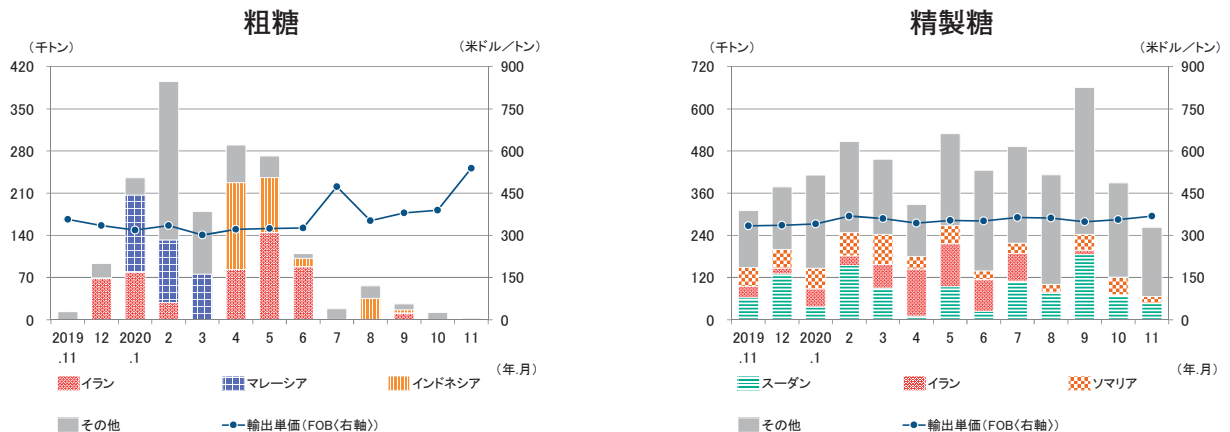
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (1月予測)	2020/21 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,441	4,731	4,731	6.5%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	346,431	393,379	393,379	13.6%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	33,750	33,426	13.6%
	輸入量	2,308	664	1,687	1,944	2,160	28.1%
	消費量	27,421	27,540	27,108	28,322	27,864	2.8%
	輸出量	2,360	5,483	8,254	8,424	8,100	▲1.9%
	期末在庫量	11,523	14,962	10,724	9,924	10,346	▲3.5%
	期末在庫率	38.7	45.3	30.3	27.0	28.8	1.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比1.6%減）

生産量：7360万トン（同3.5%減）

【てん菜】

収穫面積：23万ha（同8.8%増）

生産量：1238万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1135万トン（同0.8%増）

輸入量：696万トン（同4.2%増）

2020/21年度の輸入量は、やや増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、雲南省では面積の増加が見られるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受けて、116万ヘクタール（前年度比1.6%減）とわずかに減少すると見込まれ、サトウキビ生産量も、7360万トン（同3.5%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。

また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加に伴い、1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1135万トン（同0.8%増）とわ

ずかに増加すると見込まれる。輸入量は、2月中旬から始まる旧正月が明けるまでは沈静化するとみられるものの、ブラジル産砂糖の輸入量が2020年末にかけて急増したことなどから、696万トン（同4.2%増）とやや増加すると見込まれる。

新型コロナウイルス感染症、2020年の砂糖消費量に影響を及ぼす

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大は、2020年の国内砂糖消費量の減少をもたらした。中国国家統計局によると、同国における1月から11月のソフトドリンク生産量は前年同期比7.4%減の1億5057万トン、1月から6月のあめ生産量は同13.8%減の127万トンとなった。

2021年はCOVID-19による砂糖需要の落ち込みが回復すると予測されている。中国農業農村部が

2021年2月に発表した短期的需給見通しによると、2020/21年度の砂糖消費量は1530万トン（前年度比2.0%増）と増加し、COVID-19発生前の2018/19年度の消費量1520万トンをも上回る見込みとなっている。

また、砂糖輸入量についても390万トン（同3.7%増）と増加が見込まれている。なお、現地報道によると、中国の砂糖産業は長年砂糖の密輸問題に悩まされてきたが、2020年はコロナ禍における需要の減退に加え、移動制限などを背景に砂糖密輸量が著しく減少したとしている。その一方で、同国の砂糖業界は、同年春頃から無税で輸入できる

ASEAN加盟国原産液糖の輸入量が急増していることを問題視している^(注)。液糖輸入は税率改正などの対策が講じられない限り今後も増加傾向で推移する可能性があるともみられており、業界関係者は状況を注視していると現地報道は報じている。

(注) 液糖輸入をめぐる最近の動向については、『砂糖類でん粉情報』2021年2月号「砂糖の国際需給 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2021年1月時点予測）」の中国の項（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002383.html）を参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

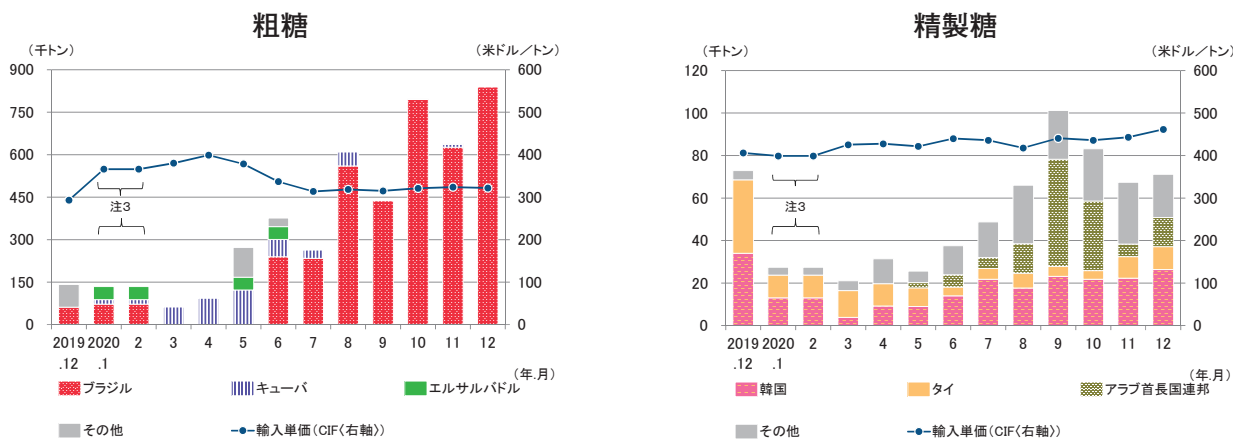
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (1月予測)	2020/21 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,157	1,157	▲1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	76,231	73,600	73,600	▲3.5%	
てん菜収穫面積	186	243	213	231	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	12,380	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,354	11,354	0.8%
	輸入量	6,033	5,053	6,675	6,767	6,957	4.2%
	消費量	16,414	16,522	16,305	16,631	16,631	2.0%
	輸出量	182	210	192	201	201	4.9%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,670	13,952	14,148	11.7%
	期末在庫率	67.9	67.1	76.8	82.9	84.1	7.3ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：147万ha（前年度比2.8%減）

生産量：9941万トン（同9.4%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1520万トン（同10.4%減）

輸出量：134万トン（同6.6%減）

2020/21年度の輸出量は、砂糖減産を受けかなりの程度減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は147万ヘクタール（前年度比2.8%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、EU最大のてん菜生産国であるフランスで感染が広がる^{いおう}萎黄病の被害を受けて、前月予測から下方修正され、9941万トン（同9.4%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

てん菜生産量の落ち込みを受け、砂糖生産量は1520万トン（同10.4%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は砂糖の減産に伴い、134万トン（同6.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

ポーランドの「砂糖税」、2021年から導入

ポーランド政府は2021年1月4日、国民の肥満抑制を目的に同年1月1日から糖類を含む飲料への課税（いわゆる「砂糖税」）を施行したと発表した。当初、砂糖税は2020年7月から施行される予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による経済への影響を考慮し、施行時期が遅延されていた。

糖類を含む飲料に係る税率は、糖類50グラム以

下を含有する飲料^(注1) 1リットル当たり^(注2) 0.5ズロチ（15円）で、カフェインやタウリンが含有される場合は、さらに同0.1ズロチ（3円）が上乗せされる。また糖類含有量が50グラムを超過する場合は、10グラム超過するごとに同0.05ズロチ（1.5円）が課税される仕組みで、課税額の上限は同1.2ズロチ（35円）とされている。

ポーランドの市場監視センター（CMR）は2月18日、砂糖税導入後において同国のノンアルコール飲料の価格が10%以上、フレーバー付きミネラルウォーターやアイ스티ーの価格では15%の値上げが生じ、COVID-19関連規制も影響するなどして、糖類含有飲料の売上高は、砂糖税導入前と比較し16%減少したことを公表した。

同国政府は、砂糖税による収入の96.5%を基金として積み立て、糖尿病や心血管疾患、ガンなどの疾病対策に充てると説明しているものの、現地報道によると、国民の過半は砂糖税導入の目的を、残りの3.5%の用途に当たる国税確保にあると考えている。

（注1）果物や野菜のジュース、エナジードリンクは課税対象外。

（注2）税法上は、100ミリリットル当たり糖類5グラム以下。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

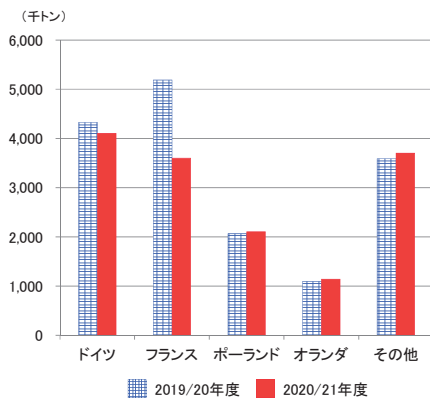
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (1月予測)	2020/21 (2月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,474	1,474	▲ 2.8%
てん菜生産量	130,930	104,206	109,671	99,755	99,405	▲ 9.4%
砂糖	生産量	20,353	17,082	16,954	15,266	▲ 10.4%
	輸入量	1,566	2,349	2,230	2,577	15.6%
	消費量	17,478	17,546	17,086	17,045	▲ 0.1%
	輸出量	4,270	2,391	1,436	1,341	▲ 6.6%
	期末在庫量	1,109	604	1,267	1,278	▲ 50.5%
	期末在庫率	5.1	3.0	6.8	7.0	3.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

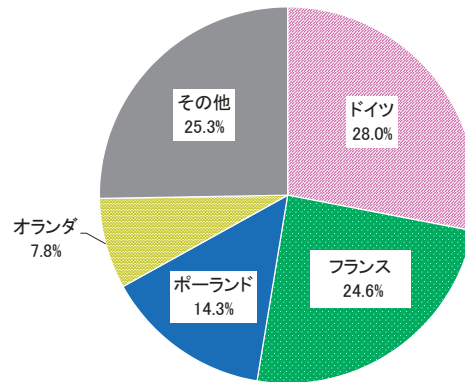
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年2月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2020/21年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2020/21年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2021年2月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）
生産量：3112万トン（同3.6%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：438万トン（同2.1%増）
輸出量：336万トン（同2.5%減）

2020/21年度の砂糖生産量は、わずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3112万トン（同3.6%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、サトウキビ生産量の増加も受けて、438万トン（同2.1%増）とわずかに増加すると見込まれる。一方で、前年度の減産により期末在庫量（当期期首在庫量）が減少したことを受け、今年度の増産が輸出量の落ち込みをある程度補完するものと想定されるものの、輸出量は336万トン（同2.5%減）と、依然減少傾向が続くと見込まれている。

砂糖（ブドウ糖）を含むゼリーが新生児低血糖発生を軽減

低血糖は新生児にはよく見られる一般的な症状ではあるが、発症時には脳損傷を引き起こし、その後、発達遅延などの影響が出る可能性があると考えられている。そこでリギンズ研究所は、新生児低血糖の発生減少を目指し、口腔内（頬の内側）へのブドウ糖含有ゼリー（デキストロースゲル）の塗布効果について研究を進め、上記結果は豪州とニュージーランドの産院18カ所で行われた4年間にわたる試験で明らかになったとしている。

本研究所は、新生児集中治療室（NICU）入院の兆候のない新生児低血糖のリスクがある新生児（糖尿病を持つ母親、後期早産、高または低出生体重に該当する子）を対象として試験を行い、NICUへの入院数の減少には至らなかったものの、低血糖の発生率を減少させることが確認できたとし、今後、研究の有用性を結論付けるために、長期的なフォローアップが必要であるとしている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (1月予測)	2020/21 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	376	379	364	361	361	▲ 1.0%	
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	31,123	31,123	3.6%	
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,293	4,374	4,384	2.1%
	輸入量	27	18	16	20	20	22.1%
	消費量	1,019	1,050	1,052	1,036	1,036	▲ 1.6%
	輸出量	3,590	3,562	3,449	3,354	3,364	▲ 2.5%
	期末在庫量	849	972	780	775	784	0.5%
	期末在庫率	18.4	21.1	17.3	17.6	17.8	0.5ポイント増

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2021]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比14.4%減）

生産量：6300万トン（同15.9%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：741万トン（同15.9%減）

輸出量：441万トン（同46.0%減）

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、139万ヘクタール（前年度比14.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、6300万トン（同15.9%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は741万トン（同15.9%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は441万トン（同46.0%減）と大幅に減少すると見込まれる。

焼き畑による大気汚染が悪化する恐れ

タイでは、サトウキビ圃場の至る所で焼き畑による収穫が行われており、これによる微小粒子状物質（PM2.5）の増加が、毎年12月から翌年4月頃まで続くとされている。2021年1月29日付けの現地報道によると、同国内では大気中のPM2.5の数値が、同国天然資源・環境省公害管理局（PCD）が定める安全基準の1立方メートル当たり50マイ

クログラムを連日超えている状況が確認されている。

世界有数の砂糖輸出国であるタイでは、砂糖産業の拡大に伴い、焼き畑収穫が10年ほど前から続いているが、サトウキビ生産者の間では、焼き畑収穫がサトウキビの品質を低下させ、買い取り価格を引き下げることが広く認識されている。しかし、収穫時の余分な葉茎や梢頭部を取り除く時間と人件費の節約の観点から、依然として国内で広く行われているのが実情である。現地報道は、今年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染防止に伴う移動制限による影響で、収穫作業の主要な担い手である移民労働者が不足していることから、焼き畑収穫が増加し、大気汚染がより深刻化する可能性があると伝えている。

また、タイ製糖協会（TSMC）によると、現在サトウキビの収穫量の50%程度は焼き畑によるものであるという。タイ政府は国内の大気汚染悪化を受けて、2022年までに焼き畑収穫を5%以下にする計画を策定し、ハーベスタ導入のための融資制度の新設や、副産物の梢頭部や葉茎の再生可能エネルギー源としての販売奨励といった対策を打ち出しているものの、進捗状況は芳しくなく、目標達成が疑問視されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

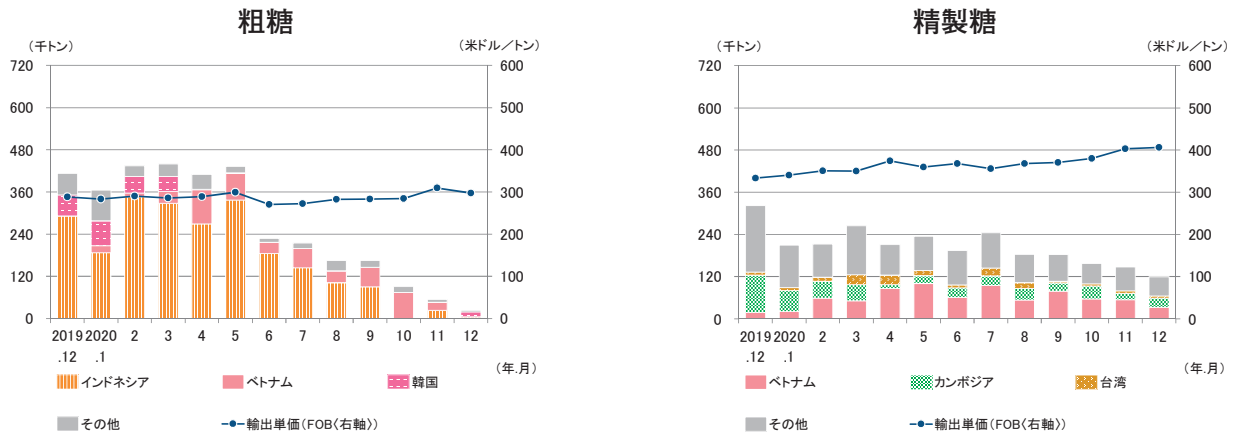
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (1月予測)	2020/21 (2月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,626	1,392	1,392	▲ 14.4%
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	70,000	63,000	▲ 15.9%
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	8,234	▲ 15.9%
	輸入量	5	4	59	23	▲ 61.1%
	消費量	3,434	3,737	3,773	3,538	▲ 3.4%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	5,331	▲ 46.0%
	期末在庫量	6,289	7,899	4,830	4,219	▲ 12.8%
	期末在庫率	47.4	57.0	40.5	47.6	52.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。